



発行 明治大学マスコミクラブ  
 〒101-8301  
 東京都千代田区神田駿河台1-1  
 明治大学広報課内 MMC事務局  
 電話 03-3296-4082  
 FAX 03-3296-4087  
 e-mail : mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp  
 発行人 斎藤 柳光  
 編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

この度、明治大学マスコミクラブ(MMC)の会長に就任することになりました。自己紹介をさせていただきますと、1977年に文学部文学科フランス文学専攻を卒業し、東京放送(TBS)に入社しました。報道では、警視庁や大蔵省担当のほか「レポートTBS6」「筑紫哲也NEWS23」などの制作に関わりました。このほか、「東京フレンズ」や「バラエティ」番組の立ち上げや日本人初の宇宙飛行士を誕生させた「宇宙プロジェクト」そして、スポーツワイドショーなどテレビラジオでさまざまな番組制作をしてまいりました。昨年6月からは子会社の株式会社サンワークに現職出向し、放送センターのビル管理を担当するビル管理事業部長としてお



会長就任に当たって  
 MMC新会長 本村 隆

明治大学マスコミクラブは今年創設30周年を迎え、本村隆新会長の下、1月25日総会を期に新たな歩を踏み出します。

## 2011年 MMC創設30周年へ

成から10年がたちましたが、前身の昭和会マスコミクラブと駿台ジャーナリストクラブそれぞれの結成まで遡りますと30周年となります。駿台ジャーナリストクラブが出来ると聞き、直ちに入会したのは入社して間もない20代後半の頃でした。会社と同じ大学の先輩も少なく、少々寂しい思いをしていた時でもあり、同時にこのマスコミ界には明治大学出身でどのような先輩がいらっしゃるのかという興味もありました。それ以来、駿台ジャーナリストクラブ、そしてMMCを通じて業界の色々な先輩や後輩と知り合い、貴重な人間関係を築くことが出来たと思っております。よく仕事などで知り合った相手と同じ明大卒だと分かるのと、不思議なもので妙な親近感を抱くものです。しかし、ずいぶん長く付き合っても、同じ明大卒であることを知らなかったというケースもずいぶんあります。徒党を組まないというのも明大卒のいいところなのかもしれません。いい意味で同じ明大卒の仲間を増やしていけるのがMMCだと思います。そのようなMMCをさらに発展させていくために



昨年度新年総会でのエール

は、その時々が開かれる機会を魅力的なものにしなければなりません。それと同時に、やはり会員それぞれが積極的に参加していただかなければ始まりません。昨年「MMCサロン」と称して若手が参加しやすいイベントも始めています。これからはいろいろな世代が参加できる企画を考えて行きたいと思っております。今回、齋藤会長が退かれるとの意思表示があり、常任理事会で後任にという打診を受けました。私は組織を引っ張っていくというより、どちらかというと、サポート役に徹していることということでMMCの中で働いてきました。副会長をおおせつかったときもそのような気持ちからお引き受けをしました。今回、会長に就任するに当たり、一番気になったのは私はまだ現役であるということでした。仕事を続けながら会長職を全うできるのかという



明治大学校友会会長 向殿 政男

## MMC明大マスコミクラブに期待する

逡巡もありました。そういう意味では役員の方々ははじめ会員の方々のサポートなくしては到底始め上げることは出来ません。是非ともサポートをお願いする次第です。

明治大学は、長い間、広報・宣伝が下手な大学であると言われ続けてきました。情報発信すべき魅力的なコンテンツは十分に持っていたにも係らずその原因は、広報関係者や教職員の中に内向き傾向の人が多かったからだと、現役学生にはマスコミ関係の就職希望者が少なく、社会でマスコミ関係で活躍している人が多くなかったからだとおっしゃられたこともありましたが、しかし、いまや、事情は変りました。明治大学に関連した情報が、新聞、テレビ、出版等々で目を見張るようになり、それに校友が心躍らせ、誇りに思うようになりました。現実には多くの明大出身者がマスコミ関係で活躍しています。これには、明大マスコミ関係の卒業生が、本マスコミクラブ(MMC)を結成したことがものをいっています。そして、マスコミ志望者を応援するマスコミ

順位	氏名	アウト	イン	グロス	ハンデ	ネット
優勝	榎 郁太郎	46	48	94	19.2	74.8
2位	中根 肇	44	43	87	12.0	75.0
3位	堀 威夫	47	43	90	14.4	75.6
4位	泊 三夫	45	44	89	12.0	77.0
5位	佐々木 共成	48	46	94	16.8	77.2
6位	阿部 剛巳	51	47	98	20.4	77.6
7位	猪野 慎吾	50	46	96	18.0	78.0
8位	木村 武	56	57	113	34.8	78.2
9位	木元 尚男	50	54	104	25.2	78.8
BB	大西 敏勝	45	51	96	16.8	79.2
BM	大林 龍彦	56	56	112	27.6	84.4

榎氏 榎 郁太郎の優勝報告を書くのも照れませんがこのような結果になりました。スコアは大したことありませんがダブルバーリアンデの利を生かして八年ぶりぐらいになりますか、優勝させていただきます。

十月二十五日、快晴 しばらく不順な天候が続いていましたが当日は快晴、絶好のゴルフ日和となりました。今回は佐々木共成氏のホームコース東松山カントリークラブでの開催。欠場者続出で十一人三組の少々寂しいコンペとなりましたが遅刻常習犯の大林氏もぎりぎり間に合い無事スタートしました。



## 武内裕杯紅葉コンペ報告

いただいた、念願の武内裕氏の優勝杯を獲得しました。作の優勝杯を獲得しました。斉藤会長ハッピー参加の故障でプレーはできずでしたが表彰式には参加していただき会長としての責務を果たしていただきました。今回も武内から賞品を多数ご協賛いただき力作の大皿は中根氏が獲得しました。



## MMC新規企画「MMCサロン」開催

かねてより会員の皆様から、もっとゆとりた会員同士が会話を楽しめる時間が出来ないかという声にお応えして、昨年からは、毎回4時間以上の会場押さえをし、皆様が好きな時間に、許される時間を使っていたたく会として「MMCサロン」を発足しました。第1回は4月、第2回は8月、第3回は



斉藤会長から優勝杯を受取る榎氏(左)

年々集まる人数と京阪神、中京からの参加者が多くなつた恒例のMMCビアパーティーが、今年は猛暑続きの1月16日夕方、開かれた。場所は、東京有楽町三丁目1番1号本店9階「ラステラ」が会場。受付には、幹事の澤田、市村両氏が来場者お待ち受けた。その隣に高速道路が架橋を走る下、小さな公園には、「明治大学発祥の地」の記念碑がひっそりと建つ。誰もがここにありたいと、建つ。誰もおもった。平成7年に建立、碑文には「明治法律学校は明治十四年に島原藩主松平氏のこの地、上屋敷で開校した」とあり、大正七年に明治大学に「と」碑文に記されている。ある女子同窓生が通りすがりに碑を見て、「アッ、いまの23階建てのリビティタワーは、この碑の姿を模したのかし

## 人呼ぶMMOBSPAパーティーと碑

ら」と言ったとかパーティーに集まった出席者は、全員この碑の前で記念写真を撮りパーティーに臨んだ。そして、今年明治大学は開学130周年迎える。馬淵 豊(56年文)



12月と昨年は三回開催されましたが、毎回会場内では、仕事の情報交換はもちろん、小規模フオーラムや、即席同窓会など所狭しと展開され、毎回盛り上がりがありました。本年度も不定期ではありますが、ゆるい感じの集まりとして開催して、皆様のご参加をお待ちしております。堀口 博史(81年文)



目賀田 武蔵氏を偲ぶ

猛暑の続く平成22年8月19日通夜、20日告別式が小石川真珠院でおこなわれた。目賀田 武蔵 享年70歳。早すぎる死を惜しみお悔いの参列があった。

目賀田君は、新橋生まれの江戸子で蘭切れの良い口調とケンカ早かった。また小唄派家元の長男として生まれ、江戸の粋を大切にしていた。大は、同期だが、学生時代はOB会を設立したとき出会った。彼は、勉強主体の駿台ジャーナリストクラブ、私は懇親、親睦主体の明大マスコミ会に席をおき、交流が始まった。テレビ朝日、報道局一筋のせいか、気が強く、融通のきかな

渡部哲寛顧問ご逝去  
 明治大学マスコミクラブ顧問の渡部哲寛(わたなべ、てつひろ)さんが2010(平成22)年12月10日、心房細動のため逝去されました。享年82歳。渡部さんは、1953(昭和28)年商学部卒。在学中は自治会委員長や雄弁会役員として活躍、読売新聞社に入社後は、中部本社販売局長と読売アカデミー専務取締役を歴任されました。同社社友として、連合駿台会常任理事などを務められ、MMCの活動も最長老の顧問として積極的にリードしていただきました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

いやつと思ったが、明治大学のことになると、人が変わるように熱くなった。マスコミ業界の主流は、W大が中心で明治は、いつも一番手を悔しがっていた。同じ業界にいて10年仕事してもお互いが同窓で在る事を知らずに過ごすことも多かった。マスコミ就職セミナーは、在校生にもっと思いから15年前にスタート、就活講座へ発展した。また同じ業界人の集まれる場を大きくするべく二つの組織を合併し10年前に、明治大学マスコミクラブ(MMC)がスタートした。この10年MMCは、就職セミナー、フオーラム、ゴルフ会、懇親会、大学広報など、活発に活動し、会員数、財政強化を実現した。目賀田君は、理事長、副会長として会の発展に大きく貢献してくれた。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。木村武 MMC 常任顧問 64年法



# 2010年度文芸講座後期報告

今年度も月曜・木曜が一般コース講座、水曜がアナウンサー講座とに分かれ週二ペースで講座を運営してきました。毎週月曜日は、800字の作文教室と面接、企画講座、グループディスカッションなど多角的に就活試験に備えました。また、本曜講座では博報堂佐久間講師の名物「自分史ワークシヨブ」に始まり、エンタリーシート講座、また各マスコミ業界OBを招いての業界研究、模擬面接などこちらも多角的に展開しました。

例年のごとく、当初一般コースで80名近く入室しますが、12月暮れには20名弱ほどに少なくなってきました。しかしながら昨年度(2009年度)もその中から読売新聞、中日新聞、FM愛媛、コム、ドリマ

## 就職活動を終えて

遠山 哲央 法学部4年  
(中日新聞社内定)



昨年7月に中日新聞社の営業職の内定をいただきました。MMCに入った頃「君は面接で絶対落ちる」と厳しいご指導を受けました。それから

クス、ソフトバンク、静岡第一テレビ、アナウンサー職など内定者を出しています。MMCマスコミ講座で残りさえすればマスコミに入るといふ伝説も生まれるかもしれません。日本経済の厳しい状況のなか、現役学生諸君は更に厳しい就活本番を今まさに迎えているとされています。講師としては1名でも多くのマスコミ人を輩出すべく今年も3月まで補講を開講し、少しでも現役諸君のバックアップができればと考えています。OBの皆様におきましては日々就活に励んでおられます。OBの皆様におきましては日々就活に励んでおられます。OBの皆様におきましては日々就活に励んでおられます。

先輩方の面接指導や先輩方と多く話をする努力をしました。おかげで本番の面接では「君は大人と話し慣れてるね」と言われたこともあり、希望の進路に進めたのは先輩方の熱心なご指導のおかげです。春からは、先輩方のように明治の後輩のため行動できるマスコミになれるように努力します。

森下 加奈代 商学部4年  
(FM愛媛内定)



地元・愛媛のラジオ局に内定をいただき、4月から働くことになりました。就職活動中にはMMCの皆様はアドバイスをいただき、大変、お世話になりました。また、同じ志をもつ友達と一緒に勉強できたことは、貴重な経験になりました。本当にありがとうございました。

鈴木 博之 農学部4年  
(ドリマックス・テレシヨブ内定)



ドラマを作りたい。その気持ちだけで就活を闘った。テレビだけの就活だったが、不安はなかった。MMCの講師の方々の支えがあり、その支えが自信へと変わっていったからだ。結果、4月からはテレビマンとしてドラマの制作に携われることになった。MMCで学んできたことを生の宝として、初心を忘れず4月から全力で働いていこうと思う。

出水 翔太郎 文学部4年  
(読売新聞社内定)



読売新聞西部本社に記者職で内定を頂きました。出水翔太郎と申します。一年という短い時間でしたが、講義を通じて非常にたくさんのお話を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。

小野 澤奈 農学部4年  
(静岡第二テレビアナウンサー内定)



丸1年かかった就活期間中、ドリカムの「何度でも」を何度も聞きました。「10000回だめで、へとへとになっても、10001回目には、何か変わるかもしれない」。今度こそ、と思って臨んだ5回目の最終試験でやとアナウンサー職内定を頂きました。22年生きてきて一番辛い1年間でした。

# リレーマゼイ北から南から

各地域で活躍のMMCの会員は、本家メディアはもちろん、文化芸術に至るまで、幅広い分野で活躍されています。今回は、北海道十勝管内では圧倒的なシェアを誇る十勝毎日新聞社取締役会長の林光繁さんと、毎回MMCゴルフコンペに優勝杯を提供いただいている京都清水焼陶家 武内裕さんにお寄せいただきました。

榊十勝毎日新聞社  
取締役会長・主筆 林光繁  
(昭和39年政経学部卒)



## 危機的な新聞業界

新聞経営は、危機的状況にある。人口の減少、IT関連メディアの参入による編集、広告を含めた総合的な影響力低下が原因である。各社とも対応に懸命だが、これまでに蓄積した資産もあり、まだゆとりが見てとれる。それもこ1、2年で厳しさがギリギリのところまでくると、私は予想している。

NAA(アメリカ新聞協会)、WAN(世界新聞発行者協会)のメンバーとして、約20年間、年度の協会の大大会に参加してきた。ここでは、アメリカ、ヨーロッパを中心

とする先進国新聞界の毎年の経営状況報告と課題解決方策が話し合われてきた。10月15日からの日本の新聞週間に合わせて開かれる「新聞大会」との内容の差は、「流経営アナリストによる現状分析報告と本音の討論にある」。

WAN大会では、2004年イスタンブール大会までは、ITメディアの分析、新聞への影響についてが主テーマだった。ITメディアの波が新聞の足元にひたひたと迫っていたが、また、波しづきをかぶるところまでになつていなかった。変化したが、2005年ソウル大会であった。あれほど新聞業界がきらついていた無料フリーペーパーを認知、スウェーデンのストックホルムでスタートした日刊フリーペーパー「メトロ」の報告を許したのだ。

2006年のモスクワ大会では、新聞経営を維持するため、根幹の編集機能以外は「すべてアウトソーシング」と、報告された。2007年のケープタウン大会では「新

聞経営は危機的状況」、2009年ハイderabad大会で、WANはIFRA(新聞編集者会議)と統合、半年遅れの大会開催となつてしまった。2010年ベイルート大会は、参加新聞社が少なく、とうとう中止となつた。

ところが、日本はソウル大会から遅れること4年、2008年の札幌大会でやっと、経営の危機を認識し始めた。それも、表面だけ。業界全体としての対応策を話し合う機会はなかった。2009年の日本の新聞発行部数は5035万部、1999年比6.4%減、広告費は673.9億円、同41.6%減。

ITメディアでは、新聞人が長い歴史の中で培ってきた倫理意識(新聞倫理綱領)に基づいて取材、判断するニュースの公正な選択、論評機能低下は否めない。明治大学は今年、創立130周年を迎える。多くの行事を抱える中で、職域校友団体の中で、30年という

くじけそうになったとき、MMCの先輩方は勿論のこと、ライバル、友達、家族が背中を押してくれました。多くの人に支えられて掴めた内定です。

## 明治大学創立130周年

### 堀威夫MMC顧問が、11月3日 全国校友東京大会で記念講演

社会的に当時から認められていた著名な政治家、あるいは教育者、思想家が築いた大学ではなく、明治維新後、理想の国家造りに燃えるまだ30歳にも満たない若き3人の法律学者が、志を持って全国から集まった学生と共に築き上げた大学が我が母校、明治大学です。今や、全国の高校生が、行きたい大学ランキング1位に選ばれた明治大学は、今年130周年を迎え、益々開かれた大学、社会、世界と共に存在する大学として進化していき



松永 三三男(74年・政経)

おりました。勢いのあるうちにと、平成七年の五月、第一回銀座作陶展を開きました。

初めての年、デザインのつづりかたの時間をかけて作りました。下書きを鉛筆でするのですが、描いては消し、消しては描き、毎日夜中まで描いていました。2回の個展をするには、六十点から百点の作品が必要でした。それらを約三カ月で作るのですから、寝る暇も無い忙しさです。疲れて、製作途中の作品を持ったまま寝てしまった。寝ていても夢の中でデザインをしていたり、もうなんだかわからなくなるほどでしたが、銀座で個展ができる嬉しさで、辛いと感ずることは無かったですね。

新鮮な気持ちを持ち続けるのは、難しいことだと思えます。銀座の個展も四年目を迎えた頃、自宅のショールームで、一年目の作品ばかり買つていられるお客様が続いたことがありました。二年目、三年目の作品の方が確実に上手くなっているはずなのに、そつちに目が向かない。はつと、気付きましたね。小手先で上手く見せる技術は上達したかもしれないが、魂を込めていない。作品を見てもらうというところは、自分自身を見てもらうことと同じなのだから。谷底へ突き落とされた気分でした。

魂を込めて、真剣に事に当たれば、仕事でも、就活でも、結構、道は拓けるものだと思います。私もまだあと十年は個展を続けたいと思つて、作陶をつづけたいと思います。新しいことに挑戦し、まだまだ前進していきたいと思つています。

それからは、毎回初めての気持ちで個展に臨むように心掛けています。そう思つて数年たった頃、周りの方々の私に対する反応が少しずつ変わってきたように感じました。心の中で見られているというか、理解しあえているというか。深くお付き合いができる人が増えたと感じます。

数年前、少し精神適に疲れたことがありました。その時私は、あまり弱みを見せたくなくて、ちよと突っ張つてしまいました。その年のMMCビアパーティーの時、「まだ、しんないな」と思いながら出席しました。カラ元気を出して、冗談ばかり言うて、笑って帰りましたが、パレバレでした。翌日、早速電話をもらいました。「おまえが頑張っていることは、みんなわかっているから」といった言葉を何人ものひとからいただきました。「あー、道は間違っていないんだ」と思つて、安心感を得たのを覚えていてます。

魂を込めて、真剣に事に当たれば、仕事でも、就活でも、結構、道は拓けるものだと思います。私もまだあと十年は個展を続けたいと思つて、作陶をつづけたいと思います。新しいことに挑戦し、まだまだ前進していきたいと思つています。



清水焼陶家 武内裕  
(昭和61年法学部卒)

## 魂を込めて

毎年春に東京銀座で作陶展を開催するようになって早いもので十六年になります。平成六年の秋に初めての個展を京都で開きましたが、一度は銀座に行きたいと思つて